1 単元名 「曲がり」と「おれ」の筆使い 『ビル』

2 目標

- 自分のめあてをもち、友達と学び合いながら、意欲的に学習に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)
- 『ビル』の「曲がり」と「おれ」の筆使いを正しく理解し、筆圧に気を付けて字形を整えて書くことができる。
(知識・理解, 技能)
- 自己評価や相互評価を行い、自分や友達の伸びを見付け合うことができる。
(思考・判断)
- 他の文字や硬筆でも「曲がり」と「おれ」の書き方に気を付けて、正しく書こうとする意識をもつことができる。
(日常化)

3 指導計画(全3時間)

第1時 「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解する。(本時)

第2時 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気を付けて字形を整えて『ビル』を書く。

第3時 毛筆で学習したことを生かして、「曲がり」と「おれ」のある文字を硬筆で書く。

4 指導上の立場

- 本単元は、第3学年及び第4学年の内容(2)「ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」を受けて設定されている。そして、毛筆で初めての片仮名の学習であり「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解して書くことをねらいとしている。ここでは、『ビル』を題材として、「曲がり」と「おれ」の筆使いを比較して、その違いを確認し、「曲がり」と「おれ」における筆の軸の扱いと、穂先の動きについてつかませたい。「曲がり」は、前単元で学習した『にじ』の『じ』の筆使いと、送筆の方向が違うだけで基本的な筆使いは同じである。また、「おれ」についても既習の学習を生かし、筆圧に気を付けて字形を整えて書くことができるようにしたい。さらに、『ビル』で学んだことを日常でも意識して書くことができるようにするために本単元を設定した。
- 本学級の児童は、毛筆の学習に毎時間意欲的に取り組んでいる。毛筆用具の名称を覚え、筆の持ち方や用具の扱い方などを学習し、準備や後片付けも手際よくできるようになっているが、墨汁を付ける量や筆の持ち方、筆圧に注意して整った文字を書くことが難しい児童もいる。また、漢字や平仮名の基本点画(「横画」「縦画」「はらい」「おれ」「点」「曲がり」)の筆使いについて学習してきているが、片仮名の学習は初めてである。普段書いている片仮名を見ると、終筆が乱雑になりがちで、「おれ」の方向が正しくなかったり、「曲がり」との違いを意識せずに書いたりしている児童も多く見られる。自分のめあてをもつことはほとんどの児童ができるようになり、めあてを意識して練習に取り組むことができつつある。
- 本校の研究テーマ「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ子どもの育成—自ら学び、生活に生かす書写学習—」に迫るために、次のような工夫を行う。
 - ・正しい「曲がり」や「おれ」の筆使いを、動画コンテンツや水書板による教師の範書で見せることにより、筆の軸の扱いや穂先の通り道についてつかませ、筆使いの違いに気付かせたい。また、筆の軸へ洗濯ばさみを取り付けて軸の動きを意識させるようにする。
 - ・個人のめあてをもつ際に、色付き学習カードを使い、めあてを意識して練習することができるようにする。また、めあてを明確にして、友達との学び合いが意欲的にできるようにしたい。
 - ・まとめ書きでは、隣同士で見合い、よかったところを伝え合うことで相互評価を行い、お互いのがんばりを認め合うことができるようにする。
 - ・第3時では、既習の漢字表の中から「曲がり」と「おれ」のある文字を見付けて練習することにより、他の文字にも共通することを確認し、意識して日常の書字活動に生かしていけるようにしていきたい。

5 本時案 (第1時)

目標	<p>○「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解して『ビル』を書くことができる。 ○自分のめあてをもち、友達と学び合いながら んで練習することができる。</p>		
学習活動と される児童の	教師の 個への () 評価 ()	準備	
<p>1 学習のめあてをもつ。 (1) し書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かたかなははじめてだ。 ・「曲がり」や「おれ」が難しいな。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「曲がり」と「おれ」の筆使いに気を付けて書こう。</p> <p>(2) 自分のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「曲がり」は まらないけど「おれ」は めている。 ・筆の軸を さないように気を付けよう。 ・穂先の通り道が正しくできるようにしよう。 <p>2 練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おれ」の練習をしよう。 ・筆に洗濯ばさみを取り付けると、筆を さないようにできるなあ。 ・2色筆を使って穂先の通りを見てみよう。 <p>3 まとめをする。 (1) まとめ書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ し書きより上手に書けたな。 <p>(2) りりりをして、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい や筆の持ち方や既習の点画の筆使いを確認し、意識して学習に取り組むことができるようにする。 ・児童の から「曲がり」と「おれ」に 題のある文字『ビル』を し、本時は「曲がり」と「おれ」を学習することを知らせ、 し書きをするように伝える。 ・ し書きと手本を比、難しかったところを し合い、 題を見付けることができるようにする。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「曲がり」と「おれ」の筆使いに気を付けて書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水書板で範書することで、「曲がり」や「おれ」の筆使いの違いをつかみやすくする。 ・「曲がり」と「おれ」の違いを し合った後、筆使いの シン を分かりやすくまとめて板書し、児童が自分のめあてをもつときの 考になるようにする。 <p style="text-align: center;">「曲がり」 「おれ」</p> <p>○筆の軸を さない。 ○筆の軸を さない。 ○穂先の通り道 (から上) ○穂先の通り道 (から上) ○ めないで っくり曲 る○ 度 めて方向を え筆圧を めながら 上にはらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを めて、色付き学習カードで すことで、めあてを意識して練習することができるようにするとともに、お互いのめあてを明確にし、学び合いがしやすいようにする。 ・練習用 や用具、場 の 明をし、自分のめあてに合わせて練習できるようにする。 <p style="text-align: center;">曲がりの 分練習ができる用 おれの 分練習ができる用 穂先の通る が分かる用 と練習の場 (2色筆) 筆の軸を意識するための道具 (洗濯ばさみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と練習を見合ってもいいことを伝え、学び合いができるようにする。 ・ 間指導を行い、 に気を付けて書いている児童や学び合いをしている児童を称 し、意欲の持 を る。筆使いが難しい児童には、筆を持って に書くようにする。 自分のめあてをもち、友達と学び合いながら んで練習している。(関) ・自分のめあてを確認し 書きをした後、まとめ書きをするように指 する。 ・隣の児童とまとめ書きをしているところを見合うようにし、互いに かったところを伝え合うことで相互評価を行い、自分や友達の上達に気付くことができるようにする。 「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解して『ビル』を書くことができている。(知 まとめ書き) ・毛筆で学習したことを生かして、硬筆で『ビル』を書くことで、「曲がり」や「おれ」を意識することができるようにする。 ・自分の りりりを、学習カードに することにより、次時に取り組む 題を確認し意欲付けとする。 	<p>教材</p> <p>水書板</p> <p>色付き学習カード</p> <p>練習用 水書用 2色筆 洗濯ばさみ</p>	